

II. 各教科ごとの出題方針

<p style="text-align: center;">国 語</p>	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、中学生の実態にあった素材を広く求め、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の総合的な力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のバランスをとり、平素の学習活動が生かされるよう配慮した。特に、言語活動を想定した問題を通して、論理的に思考し、表現する力を十分みるようにした。</p> <p>分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 国語に関する知識 漢字、熟語の構成、敬語の識別に関して、その基礎的・基本的な力をみるとともに、課題の解決に向けた話し合いにおいて司会者が留意すべきこと、また、多くの人に配布するちらしで使用する言葉の効果について考える力をみるようにした。</p> <p>(2) 文学的な文章 同級生に対し心を閉ざしている中学生が、山の保全作業を行う大学生との交流によって、本当の自分を理解してもらえた喜びを感じる姿を描いた文章により、登場人物の人物像、主人公の心情の変化について考え、文章の内容を理解する力をみるようにした。</p> <p>(3) 説明的な文章 ヒトとその他の生物との違いについて、遺伝子情報の話題からヒトの能力の独自性へと論を展開する文章により、資料を参考にして論理の展開の仕方をとらえたり、筆者の説明や意見を要約したりする力をみるとともに、文章全体の構成や展開、表現の仕方を考える力をみるようにした。</p> <p>(4) 古典 白鳥が飛来することで豊かになったという話と、白鳥が去ることで衰退してしまったという話を併せて提示し、古典の基礎的・基本的な力をみるとともに、それぞれの話の内容を的確にとらえる力、因果関係を資料を基に説明する力をみるようにした。</p> <p>(5) 表現 最先端技術を紹介する雑誌の記事をもとにして、初めて出会う概念についての確にとらえる力をみるとともに、社会的な問題の解決について意見を述べる場面を設定し、想定される具体的な事例を加え、自分の考えを適切に表現する力をみるようにした。</p>
<p style="text-align: center;">社 会</p>	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な学習内容についての知識、理解や、思考力、判断力、表現力及び資料活用の技能などの諸能力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容についてバランスよく出題し、社会的事象を総合的に関連付けて考察できるように配慮した。</p> <p>分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 地理的分野 【1】では、世界の諸地域を題材に出題した。イタリアの気候と農業、アメリカとインドの関係についての問いで思考力、判断力、表現力を、ラグビーのワールドカップ出場チームの地域的な傾向、かぼちゃの輸入相手国についての問いで資料活用の技能をみるようにした。 【2】では、日本の諸地域を題材に出題した。都道府県別の農業品目、自動車工業の海外進出の利点についての問いで思考力、判断力、表現力を、地域ごとの月別降水量、主題図の読み取りについての問いで資料活用の技能をみるようにした。</p> <p>(2) 歴史的分野 【3】では、古代から近世の歴史を題材に出題した。江戸時代の商業、鎖国下の対外政策についての問いで思考力、判断力、表現力を、奈良時代の税、近世の工業形態についての問いで資料活用の技能をみるようにした。 【4】では、近・現代の歴史を題材に出題した。大正時代の工業生産額の変化、戦後の経済成長率の推移についての問いで思考力、判断力、表現力を、岩倉使節団のルート、ポーツマス条約と国境、日朝修好条規についての問いで資料活用の技能をみるようにした。</p> <p>(3) 公民的分野 【5】では、共生社会を題材に出題した。日本国憲法の条文、京都議定書、核拡散防止条約についての問いで知識、理解を、日本のODA供与先の変遷についての問いで思考力、判断力、表現力及び資料活用の技能をみるようにした。 【6】では、日本の政治・経済を題材に出題した。国民経済と政府、日本の歳出の特徴についての問いで思考力、判断力、表現力を、地方自治のしくみ、解職請求の手続きについての問いで資料活用の技能をみるようにした。</p>

数 学	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識、理解及び技能をみるとともに、数学的な見方や考え方をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、数学的な思考力、判断力、表現力をみるため、事柄を調べる方法や手順、見いだした事実や事柄が成り立つ理由を記述させることなどにも配慮した。</p> <p>また、各領域の内容や考え方などを総合的に関連付けて考察する力などもみるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 数と式 数や文字式の四則計算、文字式の活用、二次方程式などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解及び計算力などをみるようにした。また、各分野において、文字式や方程式を用いて表現し、処理する力などもみるようにした。</p> <p>(2) 図形 平面図形や空間図形を考察する場面では、図形の性質、三平方の定理などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現や処理したりする力をみるようにした。</p> <p>また、証明等を通して、論理的な思考力をみるとともに、基礎的・基本的な内容についての知識を活用して総合的に考察し、処理する力をみるようにした。</p> <p>(3) 関数 反比例、一次関数、関数などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、プロジェクターを用いて投影距離や視聴距離を考察する場面では、事象の特徴を捉えて、表や式を活用して数学的に考察し、表現する力をみるようにした。</p> <p>(4) 資料の活用 標本調査、近似値の基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるようにした。</p> <p>また、確率の分野では、その求め方に関する基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、樹形図などを活用して過不足なく数えあげる力をみるようにした。</p>
理 科	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識、観察・実験の技能、科学的な思考力・表現力など理科としての総合力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、学年、分野・領域のバランスをとるとともに、観察・実験の結果を分析して解釈する力や文章、図、グラフ等によって表現する力を十分にみるようにした。</p> <p>分野・領域別にみた出題の主なねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 物理的領域 白熱電球とLED電球を調べる実験を通して、エネルギーの変換を効率という視点でとらえるととともに、発光ダイオードやオシロスコープを用いて直流と交流の違いをとらえる力をみるようにした。また、浮力の実験を通して、物体に働く浮力の大きさは深さには関係なく物体の体積に関係していることを考察する力をみるようにした。</p> <p>(2) 化学的領域 水溶液の電気的な性質を調べる実験を通して、酸やアルカリの性質とイオンとの関係を見だし、中和反応においては水素イオンと水酸化物イオンから塩が生じることをとらえる力をみるようにした。また、未知の気体を調べる実験を通して、気体の特性から同定していく論理的な思考力をみるようにした。</p> <p>(3) 生物的領域 実験を計画する場面で検証方法についての考えを深め合う学習活動を通して、光合成に影響する要因を特定していく分析する力をみるようにした。また、刺激と反応の実験を通して、外界の刺激に反応する仕組みを神経系と運動器官のつくりと関連付けてとらえる力をみるようにした。</p> <p>(4) 地学的領域 天体の動きについての調査・観察を通して、観察記録から天体の位置や運動について俯瞰的・相対的な視点でとらえる力をみるようにした。また、水蒸気が凝結する日常的な現象の観測を通して、露点と気温や湿度を関連付けて考察する力をみるようにした。</p>

中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な英語の理解力、表現力及びコミュニケーション能力を十分みることをねらいとした。

出題に当たっては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の各領域にわたり、調和のとれた出題となるように配慮するとともに、語彙、文構造、語法等の知識をもとに、思考力、判断力をはたらかせてまとまりのある文章を理解したり、英語で適切に表現したりする力をみるようにした。

特に、表現力の問題については、場面や対話の流れを理解して、英語で適切に応答したり、与えられた情報をもとに自分の考えを英語で相手に伝えたりするなど、コミュニケーションの視点から多様な出題となるように工夫した。

題材としては、「週末の予定」、「留学先での学校紹介」、「将来の夢」、「友情を育むことについて」などの話題を取り上げた。

英 領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。

(1) 「聞くこと」の領域

【1】では、短い対話の内容を正確に聞き取るとともに、それに対して適切に応答する力、まとまりのある英語を聞いて具体的な内容や要点を聞き取る力などをみることをねらいとした。

(2) 「書くこと」、「話すこと」の領域

【2】では、対話文や話の内容を正しく理解したうえで、場面に応じて適切に表現する力、必要な情報を判断し英語で伝える力などをみることをねらいとした。

【3】(1)では、4コマの絵をもとに場面に適する発話の内容を考え、英語で表現する力、(2)では、対話の流れを的確に理解し、それに対して自分の考えを英語で適切に表現する力、(3)では、ステージで発表したいテーマと、その理由となる自分の考えや具体例を英語で適切に表現する力をみることをねらいとした。

(3) 「読むこと」の領域

【4】では、3人の中学生の会話の内容や要点を英文、表等からの情報をもとに的確に読み取る力などをみることをねらいとした。

【5】では、エッセイの概要をとらえ、話の流れや前後関係から判断して、書き手の気持ちや行動を正しく読み取る力などをみることをねらいとした。

語

Ⅲ. 各教科ごとの入試問題分析

国 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点				特記事項 (誤答例等)		
				A	B	C	D			
【一】	問一	(1)	88.4					・「功績」の「績」を「積」とした誤答や、「掲げる」を「あげる」とした誤答が多かった。また、「陶醉」の読みの正答率が低かった。漢字は手を動かして書いたり、日常生活の中で活用したりしながら習得することが重要である。このような場面を多く設定し、語彙指導と関連させて指導していくように工夫したい。		
		(2)	79.3							
		(3)	48.9				○			
		(4)	85.7							
		(5)	55.5							
	問二	(1)	敬語の知識	57.7	○			○	・ことばの学習は、生徒の日常の体験をきっかけとして、学習を深めていけるように工夫したい。また、問二(2)のような話合いの場面においては、司会者の多様な役割について意識させ、状況に応じて活用できるように指導していきたい。	
問二	(2)	司会者の役割	56.0	○						
問三	(1)	熟語の構成	61.7				○			
	問三	(2)	効果的な表現	75.1			○	○		
【二】	問一	(1)	心情の理解	67.9			○	○	・文学的な文章では、登場人物の言動から登場人物の性格や考え、心情の変化を捉える力が求められる。また、他者との交流を通して読みを深めたり、自己の考えの変化に気づいたりすることが重要である。問一(3)では、傍線部直後の「山に登ったときの正直な気持ちにしたがうってということも、またありなんだと思ってる」という部分を中心に作成した解答や、「わかろうとしたり、疑ったりすることが大切」という要素を盛り込むことのできなかった解答が見られた。本文中の言葉を使って解答することは、本文の一部分を抜き出すことではないことに注意させたい。	
		(2)	心情の理解	52.5			○			
		(3)	心情の理解	4点	13.2					
				3点	5.9		○	○		
	2点			9.8						
	問二	(1)	内容の理解	3点 28.0 2点 2.4				○		
(2)		内容の理解	74.8				○			
【三】	問一	A	論理の展開	84.9				○	・説明的な文章では、書き手の結論や主張を捉えるために、文章全体の構成や論理の筋道を捉える力が求められる。	
		B	論理の展開	39.5				○		
	問二	内容の理解	3点	3.0					・問一では、省略された前提を他の資料から読み取る力について確認した。誤答としては、空欄Bにおいて「鏡映像と自」を抜き出したものが多く見られた。論理の筋道を確認した上で、より適切な箇所を検討する丁寧な読みが求められる。	
			2点	46.1		○	○			
			1点	11.2						
			4点	5.4						
問三	内容の理解	3点	39.3					・問二では、「時期」あるいは「種類」の、いずれかの要素が欠けた解答が多かった。問三では、伝えるための「手段」について指摘できていない解答が多かった。目的に応じて複数の情報を整理する力が求められる。また、本文を抜き出して解答したために、空欄前後の文のつながりに不備のあった解答も多く見られた。		
		2点	14.5		○	○				
		1点	13.2							
問四	文章の展開	41.7				○				
【四】	問一	歴史的仮名遣い	96.1					○	・【四】においては、地域の伝承をもとにした二つの古文を読み比べることで、複数の情報を整理し、必要な情報を的確に取り出す力が求められた。	
	問二	内容の理解	4点	20.9						
			3点	25.3		○	○	○		
			2点	19.6						
1点	7.2									
問三	内容理解と四字熟語	53.6					○	○		
問四	内容の理解	56.3					○			
【五】	問一	挿し絵の効果	81.1					○	・【五】においては、雑誌の記事(連続型テキスト)と挿し絵や概念図(非連続型テキスト)から、内容を正確に理解した上で、自らの考えを形成し、表現する総合力が求められた。	
	問二	内容の理解	3点	2.7						
			2点	22.1		○	○			
			1点	48.3						
	問三	表現	5点	2.9						
			4点	12.2						
3点			18.5		○	○				
2点	18.7									
1点	14.0									
無解答	9.0									

【評価の観点】 A：話す・聞く能力 B：書く能力 C：読む能力 D：言語についての知識・理解・技能

2. 知識・技能について

- ① 常用漢字については、音訓について正確に読み書きできるようにすることに加え、**漢字は文脈の中で適切に使えるようにすることが大切**である。また、国語科だけの指導にとどまらず、学校生活全体で既習の漢字を用いる場面を多く設定し、繰り返し活用させながら体得させていくことが求められる。
- ② 話し合うことの指導については、社会生活や他教科等の学習活動に役立てられるものとなるよう留意したい。その際には、**司会者はもちろんのこと、話し合いに参加している全員が、目的や場面に応じて、話題や展開を捉え、互いの発言の共通点や相違点を確認しながら話し合うことが重要**である。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図（ねらい）

【二】問一では、「ゆれ動く詩人」というユイさんの発言を取り上げ、話し合いを通してユイさんの人物像を考えていく問いを出題した。一つ一つの言動には、登場人物のもの見方や考え方が表れている。それらの**情報を正確に読み取り、適切にまとめる力**を確認した。問二では、この場面において、ユイさんの言動が、雄太のもの見方や考え方にどのような影響を与えたのかについて、ノートにまとめていく形で確認した。

【三】問一では、書き手が省略した前提を、別の資料から確認するとともに、**前提となる結論を導くまでの過程を論理的に推論する力**を確認した。問二、問三では、「調節領域」について、またヒトが「特殊な生きもの」である理由について、**複数の情報を整理・分析した上で、適切にまとめ、説明する力**を確認した。問四では、**文章の構成や展開、表現の仕方について、叙述を根拠として分析する力**を確認した。

【四】問二では、古文と関連する資料を読んで、作物がよく育つようになった**理由を適切にまとめる力**を確認した。また、四字熟語を単なる知識としてではなく、**文脈と対応させて考える力**を確認した。

【五】問二では、雑誌の記事（連続型テキスト）だけでなく、挿し絵や概念図（非連続型テキスト）も参考にしながら、**文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見などを読み分け、要旨をとらえる力**を確認した。問三では、「アバター技術」が社会問題の解決にどのように活用できるかについて、**社会生活の中から課題を決め、伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして、適切に表現する力**を確認した。

(2) 解答結果とその分析

国語の平均得点率は53.7%であった。また、【五】問三の表現問題については、平均得点率34.1%（H30表現問題：38.5%）であり、無解答率は9.0%（H30表現問題：15.5%）であった。

【二】問一（1）（2）については、平均的な得点率であったが、（3）については、単に本文の一部分を抜き出すのではなく、**必要な情報を精査し、複数の情報をまとめ、適切に表現する力**が求められたため、得点率は低かった。【三】問二、問三、【四】問二、【五】問二も同様に、必要な全ての情報を適切にまとめることができた解答はわずかであった。授業では、目的を持って素早く情報を取捨選択したり、複数の学習材を比較検討したりする機会を多く設けていく必要がある。また、そうした学習が、書籍や新聞、雑誌などを讀んだり、関連する資料を讀んだりする読書活動や探究活動に結びつくよう心掛けたい。

記述問題は、空欄を補充して文章を完成させる形式で出題されたが、空欄前後の言葉と上手く接続していなかったために減点された解答が多く見られた。**設問の条件に合わせて文章を整える力**に課題が見られる。

また、【五】のような**表現問題では、資料を正確に読み取る力がなければ、適切に表現できないこと**に留意したい。文章の前半では、社会的な問題を取り上げ、後半ではその問題の解決のために「アバター技術」が効果的である理由を説明することが求められたが、前半と後半が論理的にかみ合っていない解答や、「寝ている間にアバターを働かせることができるから」など「アバター技術」の理解が不十分だったために、得点に結びつかなかった解答が散見された。昨年よりも無解答率は低かったが、得点率も低くなった。

現在、教材ベースから資質・能力ベースへの授業改善が求められている。各単元における「付けたい力」を明確にし、言語活動の質の向上及び指導と評価の一体化を図っていききたい。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

学習指導要領では、「国語を適切に表現し正確に理解する能力」の育成が求められており、平成29年3月に告示された新学習指導要領では、情報の扱い方に関する事項も新たに盛り込まれた。**情報と情報を関連付け、整理する力や、自己の考えをまとめ、表現する力**の育成は、いっそう重要になってきている。「読むこと」については、何のために読むのかという目的意識を学習者に理解させるとともに、文章を讀んで理解したり考えたりしたことを、話したり書いたりして発信することへとつなげていく指導を心がけたい。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

小中学校から高等学校まで一貫して生徒の言語能力を育成するという観点から、中学校学習指導要領に示されている指導事項及び言語活動について理解を深めるとともに、義務教育段階での学習内容や習得状況など、生徒の実態を把握した上で高校の指導につなげていきたい。特に、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の指導については、義務教育段階での学習内容を生かすとともに、「付けたい力」を明確にした上で**指導計画を設定し、指導と評価の一体化を図りながら、系統的な実践を行っていくことが求められる**。

社 会

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点			特記事項(誤答例等)	
				A	B	C		
【1】	(1)	世界地図の読み取り	70.7		○		<p>(1)世界地図の読み取りについては、緯度や経度、大陸や州の区分を活用し、地理的認識の座標軸を持たせることが効果的である。</p> <p>(2)地中海性気候の乾燥する季節についての誤答が多かった。自然環境の特徴については、農業や生活の特徴と関連付けて考察させることが大切である。</p> <p>(5)②植民地等の読み取れる情報のみを解答している誤答が多かった。資料を活用する際には、読み取った情報をもとに、多面的・多角的に考察させることが必要である。</p>	
	(2)	①Q	2点 11.3 1点 13.5	○		○		
		①R	62.4			○		
		②	世界の宗教分布	65.2		○		○
		(3)	南アフリカ共和国の地誌	37.2	○			○
		(4)	かぼちゃの輸入相手国	47.0	○	○		
	(5)	①	アメリカの工業(サンベルト)	57.1			○	
		②	アメリカとインドの関係(歴史)	23.0				
		②	アメリカとインドの関係(地理)	35.6	○	○		
【2】	(1)	日本の地形(造山帯)	37.8			○	<p>(3)日本の諸地域の考察については、地域全体を概観させる学習だけではなく、特定のテーマについて地域間の比較をさせる学習が効果的である。</p> <p>(6)主題図については、「身近な地域の調査」の単元等において、統計資料をもとに実際に作成させることが効果的である。</p>	
	(2)	太平洋側・内陸・日本海側の気候	47.9			○		
	(3)	都道府県別の農業品目	48.0	○	○			
	(4)	地域の結びつきと交通機関	25.5			○		
	(5)	①	中部地方の工業発展の理由	55.4	○			
		②	工場の海外進出の背景	50.6	○	○		
	(6)	主題図の読み取り	68.1			○		
【3】	(1)	①	奈良時代の税の仕組み	48.5		○	○	<p>(1)(5)資料については、内容を読み取るだけではなく、その内容から当時の社会の特色について考察させることが大切である。</p> <p>(3)武家政治の特色については、朝廷との関係の変化や、支配の広がっていく様子に着目させ、時代ごとに比較させることが効果的である。</p> <p>(4)(7)歴史的分野の授業においては、時代ごとに、他国では何が起きていたか、どのような社会の状況だったか等、比較しながら考察させることが必要である。</p>
		②	71.3	○	○			
	(2)	国風文化	60.9			○		
	(3)	幕府のしくみ	60.1			○		
	(4)	戦国時代における世界の出来事	65.8	○		○		
	(5)	①	江戸時代の商業	2点 4.7 1点 14.7	○			
		②	鎖国下の対外政策	43.8	○		○	
		(6)	アヘン戦争後の対外政策	38.5	○		○	
	(7)	Q	産業革命期の工業	41.9	○	○		
		R	39.3			○		
【4】	(1)	①	岩倉使節団	70.8			○	<p>(3)生産額割合の変化について、その背景まで書いていない誤答が多かった。グラフ等の統計を扱う際には、その変化の背景にどのような歴史的事象が起きたのか等を考察させることが必要である。</p> <p>(4)領土の画定については、その経緯に触れながら扱うことが大切である。</p>
		②	64.5			○	○	
	(2)	日朝修好条規の特徴	72.7			○	○	
	(3)	2点	18.2	○	○			
		1点	8.2					
	(4)	ポーツマス条約と国境	42.8	○	○			
	(5)	戦後の経済成長率の推移	52.2	○	○			
【5】	(1)	法の下での平等	36.6			○	<p>(1)日本国憲法の基本的原則については、具体的な日常生活における事例を扱い、自由・権利と責任・義務の関係を正しく認識させることが必要である。</p> <p>(6)国際社会との関わりについては、地理的分野や歴史的分野で学習した内容を踏まえながら、我が国の役割について考えさせることが効果的である。</p>	
	(2)	共生社会(バリアフリー)	83.5			○		
	(3)	京都議定書	49.9			○		
	(4)	核拡散防止条約	27.4			○		
	(5)	諸課題の解決(難民問題)	46.4			○		
	(6)	①	日本の対中国ODAの変化	19.4	○	○		
②		29.3						
【6】	(1)	P	43.5			○	<p>(1)(2)地方自治については、その仕組みを扱うだけではなく、主権者として政治に参加することの意義等を考えさせながら、身近な事例を通して実感させる指導が効果的である。</p> <p>(3)(7)経済については、財源の確保と配分という観点から財政の役割について理解させるとともに、租税の意義と役割について考えさせ、納税の義務について理解させることが大切である。</p>	
		Q	43.7					
	(2)	解職請求	54.9	○	○			
	(3)	国民経済と政府の関係	56.9	○	○			
	(4)	地方分権	42.2			○		
	(5)	現代の消費生活の特徴	71.7	○		○		
	(6)	公共料金	76.4			○		
	(7)	日本の歳出と税収	2点 24.8	○	○			
1点 38.1								

【評価の観点】 A：社会的な思考・判断・表現 B：資料活用の技能 C：社会的事象についての知識・理解

2. 知識・技能について

- ① 基礎的・基本的な知識を問う問題は、文章中の穴埋めなど語句記述問題の平均正答率が54.7%と、全体の平均正答率(51.3%)よりもやや高い結果となった。社会的事象について理解するためには、基礎的・基本的な知識を確実に習得させることが必要であり、習得にあたっては、文章から該当する語句を答えさせるだけでなく、**語句の意味について説明させる指導**が効果的である。また、誤字による減点が多かった。教科書の太字となっている語句については、正しく漢字で書けるようにしておきたい。
- ② 図を読み取る技能を評価する問題は、平均正答率が58.6%と全体平均よりも高い正答率となった。特に、【1】(1)や【2】(6)など、地図を読み取る問題の正答率が高かった。しかし、【2】(2)の月別降水量の読み取り問題など、グラフを読み取る問題の出来が十分ではなかった。雨温図の読み取りについては、農業や生活の地域の特徴を理解させる上で必要な技能の一つである。「なぜ冬の降水量が多いのか」、「なぜ年中降水量が少ないのか」など、**因果関係について考察させる指導**を行うことが効果的である。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図(ねらい)

中学校社会科では、資料を読み取り、事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てることを各分野共通の目標としている。例えば【1】(5)で、資料の特徴を読み取ったあと、その内容と既習の知識を組み合わせ「アメリカとインドの企業の連携が盛んな理由」を想起し、適切に表現する力を問う設問としたように、社会的事象の特色や事象間の関連を適切に思考・判断し、表現する力を問う文章記述問題を6問出題している。また、資料に当てはまる内容を思考・判断する力を問う記号選択問題を4問出題している。

(2) 解答結果とその分析

文章記述問題の平均正答率は29.5%と全体平均よりも低い結果となった。その要因としては、資料を適切に読み取れていないことや、資料と関連した既習知識を引き出せないことがあげられる。適切に表現するために、**どのような要素が必要か判断する力**と、**既習知識と結びつけ、筋道を立てて説明する論理的思考力**が必要である。また、記号選択問題の平均正答率は51.0%であり、これも全体平均よりやや低い結果となった。資料から読み取った内容と、選択肢を適切に組み合わせるためには、記述問題と同様に、知識を結びつける論理的思考力が必要である。日常の授業における取組の工夫が求められる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 知識注入型の授業に陥ることなく、生徒が疑問を持ち「解決したい」「話し合いたい」と思えるような学習課題を設定し、事象を多面的・多角的に考察し、判断するとともに、表現する過程を重視した**問題解決的な学習を工夫**する必要がある。そのためには、単元全体を見通して授業を構想することが大切である。
- ② 単元指導計画を作成する際には、単元ごとに「身に付けさせたい力」を整理し、それを毎時間の授業にどのように位置付けるかを明確にすることが大切である。また、問題解決的な学習をするために**基礎的・基本的な知識や地図・グラフ等の資料を活用する技能を確実に習得**させることが必要である。
- ③ ゴールをイメージして授業を組み立てることにより、資料や発問の生成が可能になることから、最終的にどのような言葉を生徒から引き出したいのかをあらかじめイメージしておくことが大切である。**評価問題をあらかじめ作成**した後、授業を構想することも効果的である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校教科書の内容について理解し、その内容を**生徒がどれだけ身に付けているのか実態を把握**したうえで、指導計画を作成することが必要である。
- ② 授業時に発問を投げかけたり、資料を読み取らせたりする機会を増やすことと、説明や発表の場を設けるなど**言語活動を充実**させることが必要である。
- ③ 中学校社会科の学習を踏まえ、**各科目の特質と相互の関連性を考慮**しながら、世界や日本の歴史的事象や地理的事象、現代社会の諸事象について考察し、その内容を説明したり自分の考えを論述したりすることを通して、社会的事象についての見方や考え方を成長させるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることを重視することが必要である。

数 学

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点			特記事項 ([]内は誤答例)
				A	B	C	
【1】	(1)	① 正の数と負の数	95.9			○	①～④の基礎的・基本的な計算は概ね身に付いている。④では約分をしていない解答が目立った。また、⑤では平方根の中の整理ができていない解答が目立った。 ② [-17] ⑤ [$9+2\sqrt{18}$]
		② 正の数と負の数	83.6			○	
		③ 文字式の計算	89.0			○	
		④ 文字式の計算	84.0			○	
		⑤ 平方根の計算	63.0			○	
	(2)	二次方程式	64.0			○	二次方程式の解の公式を用いるときは「=0」の形に式変形し、整理することを意識させる必要がある。 [$x=1,2$]
	(3)	近似値	15.0		○		不等号を用いて表すとき、等号の有無について吟味する指導が必要である。 [$129.5 \leq a \leq 130.4$]
	(4)	文字式	11.8			○	文字を用いて、距離・時間・速さを表すことができているが、文字式を最後まで整理する必要がある。 [$(\frac{x}{60} + \frac{1200-x}{120})$]
(5)	確率	49.7			○	起こり得る場合を、樹形図等を用いて、正しく数え上げる習慣を身に付けさせる必要がある。	
(6)	円周角の定理	66.8			○	円周角の定理を用いたり、補助線を引き図形を考察させたりする必要がある。	
(7)	平面図形の作図	2点: 9.8 1点: 1.0			○	機械的に作図をするのではなく、作図方法と図形の性質を結びつける活動が必要である。	
【2】	(1)	関数 $y=a/x$ の定数決定	72.8			○	関数の基礎・基本の習得に加え、図形と関数を関連付けることが大切である。(3)は、曲線を含む面積を共通部分として捉え、等積変形を用いる問題である。単元の中で、生徒に考察させる場面を設定することが必要である。
	(2)	2直線の交点の座標	36.3			○	
	(3)	等積変形	13.1	○			
【3】	(1)	ア 規則性	71.4			○	問題文の情報を正確に読み取る力が必要である。(3)では投影距離、視聴距離、画面の面積の関係性を読み解く必要がある。各単元において、日常生活と関連付けた題材を取り扱うことが求められる。
		イ 規則性	55.9			○	
	(2)	関数 $y=ax^2$ の式の決定	24.3			○	
	(3)	関数 $y=ax^2$ の式の活用	1.6	○			
【4】	(1)	標本調査	64.7			○	標本調査を「比」と関連付けて指導する必要がある。文章題では題意を理解し、見通しを持って考え、事象を数学化したものを正確に処理する力が求められる。
	(2)	① 一次方程式と割合	8.8			○	
		② 連立方程式と割合	4.5	○			
【5】	(1)	三平方の定理	59.9			○	空間図形の一面に着目して考察することが必要である。「あふれた水の体積」が「水面下の正四角錐の体積」と一致することから、体積比に着目して考える必要がある。また、立体を様々な方向から見た断面図を書くような学習も求められる。
	(2)	正四角錐の体積	46.8			○	
	(3)	① 相似比と体積	15.0	○			
		② 半球の半径	1.0	○			
【6】	(1)	中点連結定理	88.1			○	根拠が不十分であったり、定理や性質が曖昧であったりする解答が多かった。定理に基づいた根拠を明らかにし、数学的な表現を用いて説明する活動を充実させる必要がある。三角形の合同や相似の証明と併せて、教科書で取り扱われている様々な定理や性質が、なぜ成り立つのかを考察し、表現する場面を設定することが必要である。
	(2)	① 平行四辺形の証明	3点: 8.8			○	
			2点: 2.0				
			1点: 6.8				
		②	I 正方形になる条件	32.6			
II 平行四辺形と正方形	2点: 1.0 1点: 2.2				○		

【評価の観点】 A：数学的な見方や考え方 B：数学的な技能 C：数量や図形などについての知識・理解

2. 知識・技能について

- ① 「数と式」については、数や文字式の四則計算の基礎的な知識・技能は概ね身に付いている。平方根を含む計算や方程式の解法の手順において、確実な定着を図ることが必要である。
- ② 「図形」については、線分の長さや立体の体積を求めるために必要な要素を調べていく学習活動が求められる。
- ③ 「関数」については、基礎的な知識・技能は概ね身に付いている。日常生活や社会の事象に関する問題では、文章や表から必要な情報を読み取り、活用する学習活動が求められる。
- ④ 「資料の活用」については、与えられた情報を整理し、正確に考察・処理する学習活動が求められる。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図（ねらい）

身近な事象を表やグラフを活用して判断する問題や、図形についての基礎的な知識・技能を活用し、総合的に考察し、処理する問題を通して、数学的な思考力・判断力・表現力等をみることにした。

【3】(3)「具体的な事象を、関数 $y=ax^2$ と捉え、表や式を活用して課題を解決する問題」では、プロジェクターの投影距離や視聴距離を考察する場面で、事象を数理化する力をみることにした。

【5】(3)「半球に沈めた正四角錐を多様な視点から考察する問題」では、「あふれた水の体積」と「水面下の正四角錐の体積」が等しいことに気づき、立体を様々な方向から考察する力をみることにした。

【6】(2)②「平行四辺形から正方形になるための条件を考察し、説明する問題」では、与えられた条件を既習の知識と結び付け、論理的に説明し、表現する力をみることにした。

(2) 解答結果とその分析

【3】(3)は、表や式を活用し、面積から画面の縦の長さ、横の長さを求め、三平方の定理を用いて視聴距離を求める問いであるが、解答の道筋を立てることができなかった受験生が多かった。各単元において、日常生活や社会の事象と関連付けた題材を取り扱うことが求められる。

【5】(3)は、単純な体積比の問題であれば処理できるが、「あふれた水の体積」と捉えることができていない。空間図形の一面に着目して考察することが必要である。

【6】(2)②は、正方形にするためにはどんな条件が必要になるかはイメージできるが、数学的な表現を用いて説明する力が不足している。教科書の表面的な理解で終わるのではなく、数学の原理・原則を、数学的な表現を用いて他者に説明したり、議論したりすることができる力が必要である。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 「数と式」については、全領域と深く関わり日常生活や社会においても様々な場面で使われている。そのため、**計算方法を考察したり、具体的な場面で活用したり**することを通して、基礎・基本の定着を図ることが求められる。定着が不十分な場合には、**その都度取り上げて指導を繰り返す**ことが必要である。文字式の活用においては、見通しを立て、何の数量をどのように表すのか等、丁寧な指導が大切である。
- ② 「図形」については、**立体模型やICT機器の活用など、観察・操作・実験等の活動**を通して、図形を考察することが必要である。その際、定義・定理・性質の理解を深めさせるとともに、なぜ成り立つのかといった、**論理的に考察し数学的に表現する力**や、図形に対する**直感的な見方や考え方**を身に付けさせていくことが大切である。
- ③ 「関数」については、基礎的・基本的な内容の習得とともに、**表、式、グラフなどを相互に関連付けて考察し、表現する力**を育成することが大切である。また、日常生活や社会の事象から関数と結び付けて捉え、その考察の過程や結果を数学的な表現を用いて説明する場面を意図的に設けることが大切である。
- ④ 「資料の活用」については、目的に応じて資料を収集して処理し、その傾向を捉え、考察し表現する力を身に付けさせていくことが大切である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中央教育審議会答申が示した「算数・数学の学習過程のイメージ」は、幼小中高を通して数学的に考える資質・能力を育成することを目指している。単元を見通し、内容の系統性を重視しつつ、**中学校での指導内容を十分理解**し、定着状況を把握、確認した上で指導する必要がある。
- ② 授業においては、単元を通して、どのような力を身に付けさせたいかを明確にし、知識・技能を習得しながら、**思考力・判断力・表現力等を育成**することが大切である。生徒の発言を拾い上げながら、数学的な見方・考え方よさを見出す力や得られた結果をもとに批判的に検討し、**体系的に組み立てていく力**、既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりする力を育成することが大切である。
- ③ 単元においては、**日常生活や社会の事象**と関連付け、それらを数理的に捉えることによって数学的な問題を見出したり、**事象を数理化する力**を養い、**主体性を持って様々な問題解決に取り組む態度**を育成したりすることが大切である。

理 科

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	分野	評価の観点			特記事項 (誤答例等)	
					A	B	C		
【1】	(1)	網状脈をもつ植物	43.4	生物			○	葉脈の形状から、双子葉類に分類できることなど、共通性を意識しながら整理して理解することが求められる。	
	(2)	細胞内にある緑色の粒	93.8				○	基本的な知識としてしっかり定着している。	
	(3)	葉をうすく切る理由	23.4		○			実験・観察を行う際、何を目的としてその操作をするのか、十分な意味を理解して実施する必要がある。	
	(4)	脱色する液体	90.7			○		実験・観察に使用する薬品及びその扱いに対する適切な知識・技能を確認する必要がある。	
	(5)	② デンプン確認の理由	29.6			○		適切に要因が調べられない実験計画を、足りない条件に適切に着目して検討、改善を行うなどの学習活動が求められる。	
		③ 比較実験の方法	51.8			○	光の有無(独立変数)がデンプン生成に影響する(従属変数)との予想を、比較検証できる計画を立案する力が求められる。		
【2】	(1)	イオンと電流の関係	80.0	化学			○	水溶液の電気伝導性を調べる実験の結果を解釈することで、イオンが電気を帯びた粒子であることに気づきたい。	
	(2)	アルカリが手にかかった場合の対処	86.3			○		「ア」は、アルカリと酸の量的関係や中和熱等の影響があるので、注意が必要である。	
	(3)	化学反応式	14.1			○		酸とアルカリを混ぜる化学変化を、化学反応式で表現する力を問うた。係数が違うので、係数のつけ方に注意が必要である。	
	(4)	塩の名称	41.6				○	誤答例として、「硫酸化バリウム」や「硫化バリウム」等が多かった。	
	(5)	① 水素イオンの数の変化	35.7			○		酸とアルカリの特性や中和反応について、与えられたグラフをイオンのモデルと関連付けて理解できるか問うた。「白い物質ができた」ことから、塩が沈殿していることを見だして、粒子の数の変化を推論する力が求められる。	
		② バリウムイオンの数の変化	28.4			○		(1)と(5)を関連付けて、中和反応によるイオンの数の変化と電流の変化を関連付けて見いだす力が求められる。	
	(6)	混ぜた液のイオンと電流の関係	32.7			○	家庭用コンセントがなぜ並列回路なのか、その利点を含めて考察させる学習活動が求められる。		
【3】	(1)	回路の性質	52.8	物理			○	電力と電圧、電流の関係という基本的な知識を問うたが、単位を適切に換算する力も必要である。	
	(2)	LED電球の電流の大きさ	55.5				○	日常生活の中でLED電球が普及している理由を、実験の結果とエネルギーの概念とを関連付けて分析、解釈し、見いだす力を問うた。「AはBより～であるから」等、対象を明確にして物理量を端的に比較する表現力が求められる。どちらの電球に注目して比較しているかが不明瞭な解答が多かった。	
	(3)	記号 エネルギー変換効率	90.6				○		
		理由 エネルギー変換効率の理由	2点 38.9				○		
			1点 35.1				○		
	(4)	発光ダイオードの電流の大きさ	46.8			○	実験の結果から発光ダイオードの整流作用に気付き、並列回路の知識と関連付けて電流の値を見いだす力が必要である。		
	(5)	交流の光り方	64.3			○	実験の条件を適切に抽出・整理し、発光ダイオードの性質をもとに、光り方を推論する力が求められる。		
【4】	(1)	月の形の名称	70.6	地学			○	月の満ち欠けについて、基本的な知識はしっかりと身に付いている。	
	(2)	月の位置	5.3				○	太陽と月と地球の位置関係と月の運動を関連付ける等、複数の資料を統合して考える力が求められる。	
	(3)	内惑星の位置	40.5				○	観察した金星の形と大きさ、観察時刻・方位等から、太陽・金星・地球を俯瞰する視点で捉える力が求められる。	
	(4)	外惑星の位置	54.7				○	観測者の視点(位置)を移動させ、木星と地球を俯瞰するような視点から考えさせる学習活動が求められる。	
	(5)	惑星の公転面のようす	3.4				○	「惑星を地球から見るとなぜ同じ経路を通るのか」等、黄道という知識の概念的理解に繋がる発問を効果的に行う必要がある。	
【5】	(1)	① 刺激の伝達経路	59.4	生物			○	刺激を受けた後の信号を通る経路は、目と皮膚では異なる点に注意したい。	
		② 反応にかかる時間	4.4				○	実験の条件と結果を適切に解釈する力を問うた。本実験の方法では、花子さんの反応時間は結果に含まれないことに注意したい。	
		③ 反射について	73.4				○	受けた刺激が脳を介さずに筋肉に伝わる反射と、通常の刺激における反応との違いに留意したい。	
		(2)	① 密度の計算	52.4	物理			○	物体の密度の計算だけでなく、単位を適切に換算する力が求められる。
		② 浮力と体積の関係(グラフ)	2点 36.0				○		
			1点 22.2				○	結果から浮力の大きさを適切に計算し、グラフに表す力を問うた。実験の測定値をグラフ化することで、生徒が自ら規則性を見いだす学習活動が求められる。	
			③ 浮力と深さの関係(記述)	41.8			○	浮力と水圧の概念が混同している誤答例が目立った。結果を適切に分析、解釈した上で説明しあう学習活動が求められる。	
		(3)	① 気体の捕集法の理由	81.4	化学			○	気体の捕集法について基本的な技能がしっかりと身に付いている。
		② 気体のおいの確認方法	96.4				○	気体のおいを調べる際には、正しい方法で行うための知識・技能を身に付けておく必要がある。	
		③ 気体の特定	72.1				○	それぞれの気体の特性について調べ、その結果を分析して解釈する学習活動が求められる。	
	④ 二酸化炭素の性質	85.7				○	複数の気体を調べた結果から対象の気体を特定し、その気体に関わる実験方法を想起する力が求められる。		
	(4)	① 空気中にふくまれる水蒸気量	49.0	地学			○	表から必要な値を適切に読み取り、既存の知識や概念と関連付けて考える力が求められる。	
	② 水滴がつき始める温度の計算	42.7				○	空気に含まれる水蒸気量と、壁の表面の水滴の有無を関連付けて考え、壁の表面の温度を推論する力が求められる。		
	③ 結露の有無の特徴	23.3				○	露点と気温・湿度の概念を、地下室の壁に水滴がつくという現象に活用することが求められる。		

【評価の観点】 A: 科学的な思考・表現 B: 観察・実験の技能 C: 自然現象についての知識・理解

2. 知識・技能について

- ① 基本的な知識を問う問題は正答率が高く、定着している。しかし、【1】(1)、【2】(3)(4)、【5】(4)①の正答率は低く、**他の似た知識と混同**したり、**基本的概念を曖昧に理解**したりしている生徒が多い。**複数の事象の因果関係を捉える**ことで概念形成を図るなど、知識の階層性を意識させたい。
- ② 【5】(2)②では、必要な値の算出や、適切なプロットができていない。実験結果を整理しグラフにする技能が、科学的概念を使用して考えたり、説明できたりする力につながることを意識させたい。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図(ねらい)

【1】(5)では、**実験計画を検討して改善**できる思考力を、【4】(2)、【5】(4)③では、**複数の資料から情報を整理、分析し解釈**する判断力を、【3】(3)では、**実験結果と科学的な概念を関連付けて適切に比較**して表現する力が求められている。

(2) 解答結果とその分析

正答率は、【1】(5)②29.6%、【4】(2)は5.3%、【5】(4)③は23.3%、【3】(3)は38.9%であった。実験の場面では、仮説を検証できる実験計画を生徒に考えさせたり、必要に応じて振り返ったりするなど、探究の学習過程を重視したい。月の運動と見え方について考える学習では、観察記録などの**資料をもとに**、月の見え方と公転運動を関連付けて考察させたい。水蒸気が凝結する現象について考える学習では、「窓の結露は冬に起こりやすい」という経験のみで判断するのではなく、気温の変化の要因と飽和水蒸気量とを関連付けて、結露の**原因を考え**させたい。力学的エネルギーの保存について考える学習では、実験結果を分析、解釈して導きだした**自らの考えを表現させる**ことで、確かな**概念形成**が期待できる。

また、教員との対話や生徒同士の対話を、問題解決の場面で効果的に行うことで考えを広げ深め、**知識や概念をより妥当なもの**にできる。生徒が主体的に問題発見、解決を行うような授業の工夫が望まれる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 観察や実験の結果を考察する際に、**理科の見方・考え方**を働かせ、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりさせる必要がある。
- ② 日常生活や他教科等との関連を図るなど、生徒の知的好奇心や探究心から目的意識をもった観察・実験を行うことを通して、**理科を学ぶことの意義や有用性**を実感する学習経験を繰り返す必要がある。
- ③ 自然の事象には、第1分野と第2分野の両方に関わるものが多くある。そのため、二つの分野を**関連付けて多面的な見方・考え方**ができるようにすることが大切である。
- ④ 独立変数と従属変数が複数ある実験の結果を分析し解釈する際は、生徒自身が**見通しをもって**取り組める学習場面や、**振り返って次につなげる学習場面**を設定することが必要である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 入学時における生徒の状況は、各高等学校で様々である。従って、以下のような指導が求められる。
 - ・ 高校入試の正答率や誤答例を分析し、苦手な分野、計算技能のレベル、思考力・判断力・表現力の度合い等を把握する。そのうえで、**生徒の実態に即した授業のねらい**や身に付けたい力を明確にする。
 - ・ 生徒の実態等をふまえ、中学校の学習内容を**振り返る**機会を工夫する。特に生徒同士による**対話**によって、**互いに学びあい、振り返りを主体的に行う**ことができる。
- ② 習得・活用・探究といった学習過程全体を見渡し、いつ、どの教材や活動で付けたい資質・能力を身に付けさせるかを整理する必要がある。従って、以下のような指導が求められる。
 - ・ 教員との対話、生徒同士の対話、先哲の考えを手がかりにした活動等によって、意見を交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、**自分の考えをより妥当なものにする**学習活動を取り入れる。
 - ・ 獲得した原理や法則の検証実験や、自然の事物・現象に対して問題を把握し、仮説を立て、検証計画を立案し、実験を行い、結果を分析して解釈し、結論まで導きだせるような探究の学習過程のそれぞれにおいて、**理科の見方・考え方を働かせて科学的に探究するための資質・能力**を育成する。
 - ・ 様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか、新たに獲得した資質・能力に基づいた理科の見方・考え方を、**次の学習や日常生活における課題の発見や解決の場面で働かせているか**等の観点から、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。

英 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点			特記事項 ([]内は誤答例)	
				A	B	C		
【1】	A	1番 説明に合うイラスト (もの)	95.7		○		複数の情報を聞き取り、整理する力が必要である。	
		2番 説明に合うイラスト (場所)	69.8					
	B	1番 相手の提案に対する応答	38.8			○	相手からの発言の重要な情報に、適切に応答する力が必要である。	
		2番 買い物の場面における店員とのやりとり	77.0					
	C	1番 Who で始まる疑問文に対する答え	66.2			○	何を尋ねられているのかを理解し、必要な情報を聞き取る力が必要である。選択肢で用いられている同意表現の理解も必要である。	
		2番 Where で始まる疑問文に対する答え	87.9					
		3番 Why で始まる疑問文に対する答え	69.8					
4番 Why で始まる疑問文に対する答え		72.7						
【2】	A	(1) ① ちらしに対応した語の表現	73.7		○	○	[pictur]	
		② ちらしに対応した語の表現	61.0				[maney]	
		(2) どれくらい時間がかかるのかをたずねる表現	2点 : 9.5 1点 : 19.4		○		○	(2)How long を使うことは出来ている。疑問詞を用いた疑問文や take の用法について理解する必要がある。
	(3) 英文から判断される二人の予定	68.4			○			
	B	(1) 名詞を説明する過去分詞を使った表現	30.4				○	後置修飾の理解と定着のために、実際に使用する活動を取り入れる必要がある。
		(2) ① 発表原稿とスライドに対応した語の表現	45.0				○	大きな数の表現を理解する必要がある。 [september]
		② 発表原稿とスライドに対応した語の表現	59.7				○	
【3】	(1) 日常的な話題について、事実を伝える表現	3点 : 13.9 2点 : 4.6 1点 : 24.6			○	○	全体の文脈を理解し、やりとりを継続する力が必要である。平素から、自分の考えや気持ちなどを話す活動を行った後で、その表現を定着させるために、書く活動を取り入れていくとよい。 (1)no と not, There is と There are の使い分けが出来ていない。	
	(2) ① 外国の文化を学ぶことが重要な理由	3点 : 15.3 2点 : 8.2 1点 : 11.3				○		
	② 英語を上達させる方法について具体的に表す表現	3点 : 13.1 2点 : 10.1 1点 : 16.0						
	(3)	① カナダからの中学生に伝えたい内容	73.9			○	○	平素から、身近な話題や社会的な問題について、理由を明らかにした上で、自分の意見や主張を聞き手に対してわかりやすく、順序立てて話すといった言語活動を行うとよい。
		② カナダからの中学生に伝えたい内容を選んだ理由	3点 : 30.1 2点 : 13.8 1点 : 18.6					
		③ カナダからの中学生に伝える際の具体的な発表方法や発表したいこと	3点 : 17.6 2点 : 5.3 1点 : 24.4					
【4】	(1) 表に合う内容の組み合わせ	73.8				○	英文と表から要点等を的確に読み取る力が必要である。平素から、複数の素材を用いた学習活動を行ったり、本文全体の概要や要点を理解し、別の表現や同意語を用いてまとめたリする言語活動を行うとよい。	
	(2) Why で始まる疑問文に対する答え	36.7				○		
	(3) 代名詞 it が示す内容	77.0				○		
	(4) 表と英文の読み取り	62.3				○		
	(5) ① 英文の要点の理解	74.4				○		
【5】	(1)	① 英文の概要の理解	80.0			○	平素から、物語文においては、物語の展開とともに、登場人物の心情の変化を意識して読むとよい。物語の展開を追う際には、代名詞が指すものを考えさせるような発問の工夫が必要である。また、読み取った情報について、ペアやグループで生徒同士が考えを交流するなどの活動も有効である。 (3)you が your になっている答案が多かった。	
		② 英文の概要の理解	61.0					
		③ 英文の概要の理解	63.7					
		④ 英文の概要の理解	55.4					
	(2) 下線部の理由	3点 : 14.0 1点 : 19.7			○	○		
	(3) 下線部 do it が示す内容	3点 : 15.3 1点 : 10.9				○		
	(4) 英文の概要の理解	69.6				○		

【評価の観点】 A : 外国語表現の能力 B : 外国語理解の能力 C : 言語や文化についての知識・理解

2. 知識・技能について

① 外国語表現の能力【2】A(2)、【3】、【4】(5)

自分の考えを英語で表現しようとする姿勢は身に付いてきている。自分の言いたいことを相手にわかりやすく伝えるために、文構造や語法を正しく理解したうえで、話したり書いたりすることが求められる。

② 外国語理解の能力【1】、【2】A(1)(3)、B(2)、【3】、【4】、【5】

「聞くこと」に関して、まとまりのある英語を聞いて、話の概要や要点を理解する力は付いてきている。しかし、複数の情報を聞き取り、整理する力が十分に身に付いていない。「読むこと」に関しては、大まかな流れをつかみながら読み取ることはできるが、英文中の複数の情報を関連させ、登場人物の行動などを整理して読み取る力が不十分である。

③ 言語や文化についての知識・理解【2】A(1)(2)、B、【4】(2)、【5】(2)(3)

読んだり聞いたりして理解することのできる基本的な語彙を、正確に書く力が不十分である。また動詞の変化についての理解も求められる。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図(ねらい)

思考力・判断力・表現力を問う設問については、【2】～【5】の中に配置したが、ここでは、特に【3】について述べる。

【3】では、(1)から(3)までの全ての問題で、中学校での言語活動を充実させた指導を踏まえた上で、特に「書くこと」について出題した。(1)のように、日常的な場面において、話の流れを理解し、適切な表現を用いることによって、「やりとり」が継続・発展していくことにつながる。また、(3)のように自分が伝えたいものについての自分の考えを、理由を明らかにしながら順序立てて話すことによって、相手によりよく伝わる発表となる。

(2) 解答結果とその分析

自分の考え等を積極的に書こうとする姿勢をさらに身に付けさせる必要がある。〔参考〕【3】における「無記入」の割合：(1) 17.4%、(2) ①22.6%、②30.0%、(3) ②10.9%、③19.8% 身近な話題に対する自分の考えや気持ち等について、簡単な語句や基本的な表現を用いて書く活動から、社会的な話題に対して自分の考えや気持ちなどを相手に合わせて英語で正しく伝えたり、賛否・理由等について書いたりする活動を設定することが大切である。さらに、語句や表現、語と語のつながり、文脈等に注意して書く力がさらに求められる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

中学校では、**付けたい力を明確**にし、技能統合的な学習活動を通して、**コミュニケーションを図る資質・能力**を養うことが求められる。そのために、**CAN-DOリスト**を設定し、生徒と共有することも必要である。

① 既習事項が自分の表現として定着するように、「やりとり」を通じた活動に取り組ませる。

【例】・聞いたり読んだりして得た情報や知識等を、自らの体験や考えと結び付けて感想や賛否、またその理由についてペアやグループで伝え合う活動をさせる。

・相手を意識して自分の考えや気持ち等を正しく伝えたり、それについての意見を述べ合ったりする活動をさせる。

② 「読むこと」の指導においては、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容を尋ねる質問をしたり、また**発問に工夫**をしたりして正確な読み取りのための配慮を行う。

③ 「聞くこと」の指導においては、質問や依頼等を聞いて適切に応じることができるよう、「やりとり」を通じた指導を行う。また、まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取れるよう、**場面設定を工夫**した言語活動を行う。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

高校の授業では、学習指導要領の趣旨に則するとともに、新学習指導要領の趣旨と中学校での学習とのつながりを理解した上で、以下の点に留意した指導が求められる。

① 新学習指導要領で求められるのは、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、五つの領域の統合的な活動を通して、**コミュニケーション能力を育成**することである。自分の考えを目的や場面に応じて表現することに加えて、伝え合うという双方向のコミュニケーションも重視されている。

② 評価については、生徒の学習の過程や成果を評価する必要がある。指導と評価の一体化が求められている。したがって、スピーチ、プレゼンテーション、まとまりのある文章を書くなどの**パフォーマンステスト**を実施し評価に加えることが必要である。また、**CAN-DOリスト**を活用し、生徒自身が身に付けるべき能力や達成状況を把握することも必要となる。

③ 中学校における学習が十分でない生徒に対応するため、身近な場面や題材に関する内容を扱い、**中学校で学習した事柄の定着を図り、高等学校における学習に円滑に移行させる**ことが必要である。中高の外国語科教員間で互いに授業参観や情報交換をするなどして、さらなる**中高の連携**を図りたい。